

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

② 施設・事業所情報

| | | |
|----------------------------|--|-------------------|
| 名称：木下の保育園 たまプラザ | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：中山 翔太 | 定員（利用人数）： 63名 | |
| 所在地：神奈川県横浜市青葉区新石川3-5-2 | | |
| TEL：045-479-7359 | ホームページ： khtamaplaza@kinoshita-group.co.jp | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日：2016年4月1日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育 | | |
| 職員数 | 常勤職員： 15名 非常勤職員： 8名 | |
| 専門職員 | 保育士： 17名 栄養士： 1名 | |
| | 看護師： 1名 調理師： 2名 | |
| 施設・設備の概要 | 0歳児室、1歳児室、2歳児室、 3歳児室、4歳児室、5歳児室 | 厨房、トイレ、園外遊技場（テラス） |
| | 事務室、医務室、調理室、調乳室 | 設備：冷暖房 |

③ 理念・基本方針

保育理念 “生きる力を創る”

保育方針

- ・協調性を持ち、他者を尊重し認め合う心を育てる
- ・のびのびと自己表現ができる環境を提供する
- ・試行錯誤をすることで考え創造し、自分で判断する力を養う
- ・探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

保護者が安心して、園児を預けられる保育園をめざし、保育園での子どもたちの様子を伝え、理解してもらうことで保護者の安心感に繋げている。月ごと、行事ごとの写真販売。週に一度写真付きのクラスの様子の配信。保護者参加行事も含め、園行事を充実させ配信することで保護者に様々な子どもたちの姿を見てもらっている。また、「子どもたちの興味関心に寄り添う」「自分たちで判断する力を養う」ことを大切にしており、子どもたちが自由に活動出来る時間の際は「コーナー保育」を実施したり、栽培活動や日々の保育の際に出たから子どもたちのアイデアからの食育や戸外活動の実施、飼育活動から子どもたちの活動の展開などにも力を入れている。

⑤ 第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2024年4月12日（契約日）～ 2025年3月14日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（令和元年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特に評価の高い点

1) 【園長や主任は園としてのあるべき姿を考え、子どもたちの自己表現できる力を如何にして実現できるかを前向きに検討し続けている】

園長は本園での経験は2年目だが、前職の保育園での経験も生かし、自園の理念「やってみたいを見つけられる保育園」の構築から中長期計画の策定なども新たに始めている。本園が優れている点は、若い園長や主任が園の現状に満足せず、保育やマネジメントに関する知識を意欲的に吸収しようとする前向きな姿勢が顕著なことである。本園は自園よりも意識的・意図的に保育を進めている園があれば一つでも多く見学し、良いところを自園に取り込む〈ベンチマーク〉を意識しており、今後はこれを職員にも広げたいと考えているという。これに必要なネットワーク作りを園長は意識しながら、情報収集を近隣や保育団体への参加などを通じて続けている。

2) 【クラス別にこだわることなく、発達に合わせた柔軟な保育システムを構築し目指す保育実現に近づこうと努力している】

園長、主任としては課題解決や新規提案に対し前向きに検討している様子が伺える。「現状の課題解決をし、より良い保育をしたい」思いを持ち、既存のやり方や慣習に流される事無く、子どもにとっての最善の利益を追及している。その検討の過程において支障があれば期中でもやり方や保育の流れ、環境設定や職員の動きも検証し柔軟に変更をしていく姿勢がある。特に乳児や1、2歳児は個人の成長差が著しい年齢であるため、子どもに適した環境を見直し、年齢別クラスとは別にクラス編成を飛び越えて現状の子どもの成長に合わせた小集団の編成をし、生活や遊びを一緒に過ごすことで各個人に適した保育環境を提供し続けるなど、さまざまな工夫や努力が見られる。

3) 【食への関心を高めるため、様々な体験の取り組みを計画し実行している】

子ども達は年齢に応じた食の体験活動を通じて、食材が給食のメニューになり味わうプロセスを体験することができている。例えば、お米研ぎや、野菜を洗うことで食材が変化していくことに驚いたり、栽培活動では子ども自身が栽培したいものを決め、苗を購入しに行くことから始めてもいる。生育する過程を知り自身が育てたという実感は苦手な食材でもそこから食べられるようになるなど、食育から得られるものは数多くある。また5歳児では「味見当番」を設け、食事前に味見をして味見した感想を自分の言葉で伝えることで、味覚への意識や関心を高めることもできている。「お弁当散歩」では、子どもたちが、調理員が作ったおにぎりやおかずを自分でお弁当箱に詰めるなど、違った意味での食への楽しみ方を工夫するなどしている。様々な活動の様子は、その日に写真付きで報告し保護者にも共有できるようにしている。

今後さらに期待される点

1) 【本園が目指す子ども像の実現に向けて、園長や主任の保育に関する論理武装と言語化を進めることが求められる】

本園では目指す子ども像を明確化し、新たな園理念構築にも取り組んでおり、この前向きな姿勢は素晴らしい。しかし、各保育士はそれぞれが過去の他園での保育経験などもあり、園として目指す新しい保育指針に基づいた保育を理解し、これに沿った子どもたちへの寄り添いができないことも実際にはまだ多くある。そのために園長や主任に求められることは、新しい保育が求める保育手法等を選び、その手法が必要な根

拠を文言として具体的に説明できることである。この言語化は、職員の目指す方向性（ベクトル）を一致させ、日々の保育の正しさを検証することにもつながるだろう。そしてこの継続は、保護者にも伝わり本園への信頼醸成にもつながることになるだろう。

2) 【目指す保育実現に向けて、職員の意識改革をチーム編成を考えた上で計画的かつ意図的に行うことが期待される】

園長には着任から職員をまとめ、子どもや保護者に真摯に向き合い日々課題解決に一生懸命取り組む姿がある。しかし「課題解決」に重きを置いている一方で、職員間の問題には毅然とした態度に出ることに悩みを感じてもいた。園長としての経験を積む過程では、保育の専門分野に関する研究や論理を具現化し、チーム力構築のためにリーダー層を育成することが望まれる。また職員全員への研修や業務遂行の機会を利用し、職員一人ひとりの優れた能力（得意なこと）を見出し、これを活用して目指す保育が実現されることに期待したい。

3) 【子どもたちが伸び伸びと遊べる環境を作り、発展的な活動ができるよう工夫してほしい】

子どもの「やりたい」気持ちを尊重するため、コーナー保育の環境を整え、主体的に活動することや異年齢での関わりで思いやりや憧れの気持ちが持てるように環境づくりに取り組んでいる。しかし、保育室に収納場所が少なく、子どもが伸び伸びと遊びこめる空間の確保が難しい状況も見られる。そのために、各コーナーの玩具の配置や環境を見直し、子どもたちが主体的に遊び、次回の遊びに繋がられるような環境構成を構築することが今後期待される。用途に合わせて仕切りを設置するなどし、安全で有効活用できる空間へと改善することで、保育室を含め子どもたちの活動の場を広げることができるようになると良いだろう。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を行わせていただき、より良い運営・保育を行うにあたり次に繋げていく課題を学ぶことが出来ました。また、職員が行っている保育の中で気づけていなかった他の園にない良いところがあるという事を知ることが出来ました。次の第三者評価にはまたより良い運営・保育が行えるように職員全体で見直しながら日々努めていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり